『違い』を認め合い、尊重する人権教育

歩幅

あなたは少し
歩くのが遅い
あなたは少し
歩くのが速い
でもね
歩幅って合わせられるんだよ
肩を並べて歩いたほうが
楽しいじゃない

和歌山県人権啓発センター
人権の詩（こころのうた）
二〇二二年度作品より

私たちは、同和問題をはじめとする様々な差別や人権侵害が存在する社会に生きています。今を生きる私たちの暮らしや、子や孫が生きる未来をもっと生きやすいものにするために、偏見や差別のない社会（家庭・学校・職場・地域など）をつくっていくことが大切です。

一方、日本社会では、多様性を尊重する人権教育の必要性が極めて高いといわれています。多様性を尊重する人権教育は、自分と違う人を敬遠したり排除したりするのではなく、自分とは違うもの、考え方があって当然であるという価値観を受け入れることから始まります。そして、その全てがかけがえのない大切な存在なのだと理解することが重要なのです。私たちも心の中のバリアを取り払い、互いの『違い』を認め、楽しむという思考の転換をしていこうではありませんか。それは同時に、女性も、子どもも、高齢者も、障がいのある人もそうでない人も…、誰もがその卓越した能力を生かして活躍し、人生を楽しむことができる社会の仕組みや環境を整えていくことにもつながっていくことでしょう。

冒頭の詩のように、互いに違いがあるからこそ、相手のことを思いやり、それぞれが少しずつ譲り合って、歩幅を合わせることも可能なのです。そうすることで、一人で歩くときとは違った新鮮な景色が広がり、共に有意義で楽しい時間を過ごすことができるのではないでしょうか。

小松島市および市人権教育振興協議会では、本年度も様々な視点から人権問題を共に考え、行動につなげるための講演会や研修会等を計画しています。詳しくは7月発行予定の機関誌『松明（たいまつ）』に記載していますので、どうぞ奮ってご参加ください。

【小松島ハートフル映画会】のご案内

・とき 9月23日㈯
午後1時30分～3時30分
・ところ
サウンドハウスホール
・上映作品『破戒』

原作は島崎藤村の不朽の名作『破戒』。「なぜ自分の故郷を語れない。なぜ好きな人に気持ちを伝えることができない。」と自らの出自に苦悩し、最後にはある決断をする主人公・瀬川丑松。丑松の誠実さと『祈り』が多くの人々の感動と共感を呼ぶ。

入場無料

市教育委員会生涯学習課
人権教育推進室（新教育庁舎2階）
☎32・3814
FAX33・1230
Mail:jinkenkyouiku@city.komatsushima.i-tokushima.jp

市民文芸　花みずき歌壇（403）

山崎泰子・選

道々の山は新緑藤の花不死ならぬ身の一日の重さ
松島町　萬野　行子

幼子と腰を下ろせばその下は大きな地球平和でありたし
立江町　湯浅かや子

水鳥の群れ飛び立ちて水面に映りし雲はゆっくり動く
田浦町　西　教明

南吉の絵本の並ぶ教室の子らの大方きつね大好き
中田町　湯浅　百世

午後六時カラスも戻る時間です　あなたはどこを旅していますか
小松島町　萬宮千鶴子

境内の桜落葉はさらさらと狛犬さんの足元に寄る
田浦町　太田カツミ

父親が散ぜし田にも蓮華草妹はしゃぐゲンゲゲンゲと
横須町　天王谷　一

メガネ様還暦からは友となり即かず離れず生きるを支う
中田町　多田　健児

吾が曾孫は知事賞もらいえびす顔子どもらしてケーキを喜ぶ
赤石町　田原トシ子

心臓の裏のあたりの痛む夜は夢の終わりのカーテン垂らす
中田町　松並　敦子